



子牛の下痢・カゼ対策は十分ですか！

まだまだ日中は、暖かい日が続いていますが、これから朝晩の寒暖の差が大きくなってきます。これから冬季にかけては、子牛の管理が最も難しい時期となります。健康な子牛を市場に上場するために、しっかりとした衛生対策を実施しましょう。

● 子牛の下痢・カゼ対策 (No. 1)

■ なぜ、どうして？

健康な子牛を市場に上場するためには、生後3ヶ月齢までの飼養管理がもっとも重要です。なぜなら、この間に下痢やカゼを起こすとその後の発育に大きく影響し、子牛を出荷する10ヶ月齢頃までに、その遅れを取り戻すことは難しいからです。特にこの時期は、環境性の下痢や呼吸器病の感染が起こりやすいので、牛舎内の換気を良くするとともに消毒薬の散布や石灰塗布をするなど環境を衛生的にすることに努めてください。

■ 保温と換気

冷え込みの厳しい冬期の朝晩は、保温ランプや着帯を利用するなど、寒さ対策が必要です。特に、すきま風は、子牛の体温を奪い、著しい体力の消耗を招き、下痢やカゼの発生が増加します。すきま風が入らないようにするとともに、子牛には良質な敷き料をたっぷりを使い、保温に努めてください。また、牛舎を密閉していると、内部のアンモニア濃度が増加します。このような牛舎では、採食量が減ったり、呼吸器が障害を受け、呼吸器病が多発します。冷え込みの厳しい時期は、換気扇をゆっくり回したり、風の無い晴れた日には窓を開けるなど、換気には十分注意してください。

■ 早期発見・早期治療

子牛の状態は、常に観察してください。下痢やカゼの症状を確認したら、ただちに獣医師に連絡して、適切な処置を受けてください。(下痢の予防には、乳酸菌製剤の投与なども有効です)

事故率の少ない農家の管理を調べてみると、異常牛の早期発見、早期治療が徹底されています。

早期発見、早期治療は、事故による損失を最小限に抑えるために極めて重要です。

ちょっとしたことでも見逃さないように心がけてください。

ご不明な点は、城南家畜保健衛生所まで

TEL 0966-22-3814 FAX 0966-22-3617